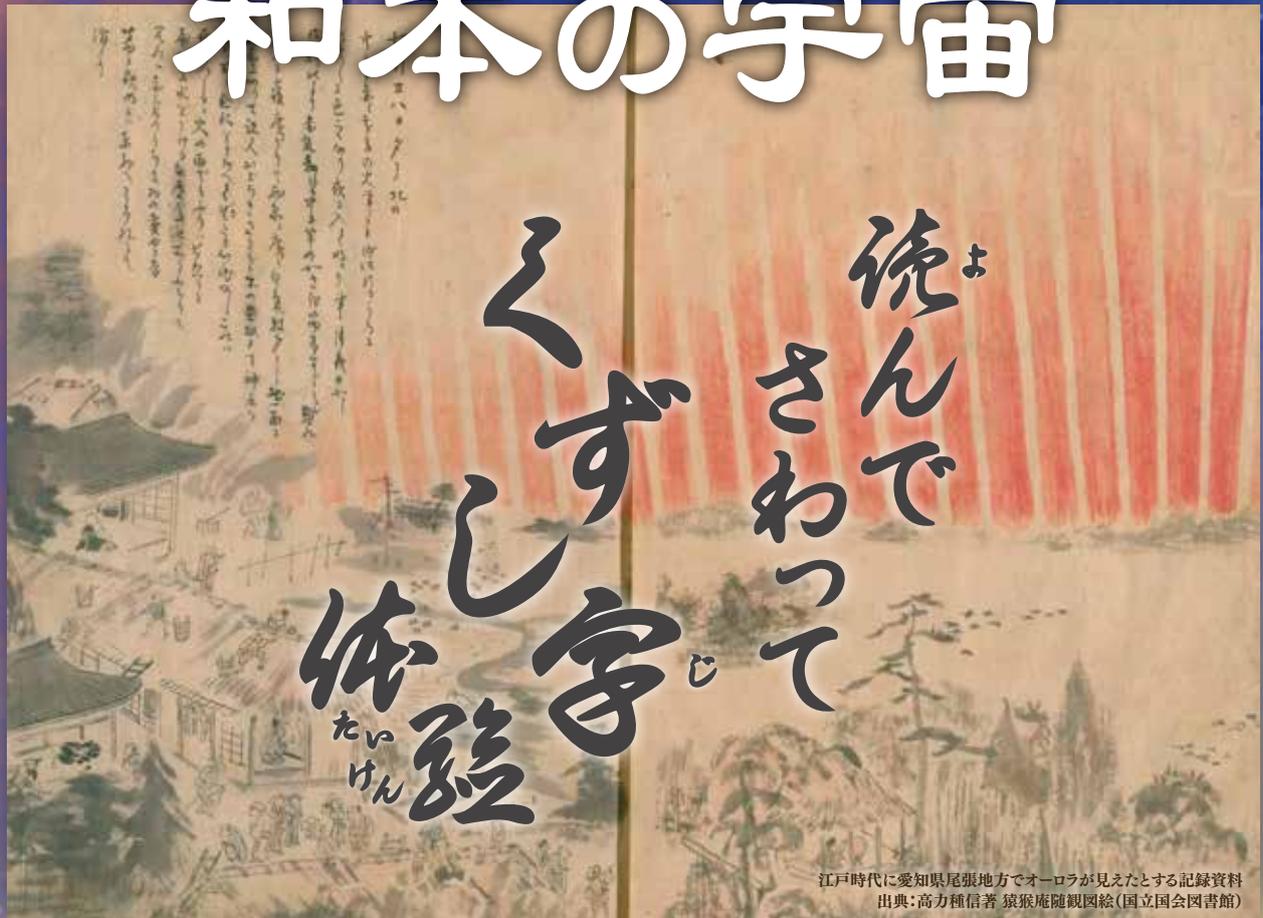


# デジタルアーカイブと旅する 和本の宇宙



江戸時代に愛知県尾張地方でオーロラが見えたとする記録資料  
出典：高力種信著 猿猴庵随観図絵(国立国会図書館)

「和本」とは、日本古来の装訂によって作られた本の総称です。近年では、前近代に成立した和本の電子化が活発に進められており、東海国立大学機構も「東海国立大学機構学術デジタルアーカイブ」で多くの和本の画像データを公開しています。しかし、書かれている文字の多くは「くずし字」。現代人には判読が困難ですが、過去の記録を読み解くために避けられません。

そこで今回は、江戸時代に愛知に現れたオーロラについて記された和本を使ってくずし字の基礎に触れ、和本を読み解く楽しさと現代の生活や最新科学につながる奥深さをご紹介します。

2025

11.7 (金)  
18:00~19:30

参加無料・要申込

詳細は、QRコードから



ナビゲーター

加藤 弓枝 (名古屋大学 大学院人文学研究科 准教授)  
南 雅代 (名古屋大学 宇宙地球環境研究所  
超学際ネットワーク形成推進室 教授)  
田中 幸恵 (名古屋大学附属図書館)

会場

Common Nexus LOUNGE1  
(名古屋大学駅 1番出口直結)

定員

先着30名

共催

名古屋大学附属図書館  
名古屋大学 宇宙地球環境研究所  
名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部